

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972000222		
法人名	医療法人 みずき会		
事業所名	グループホーム げいせい		
所在地	高知県安芸郡芸西村和食甲4268		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本館開設から10年、新館開設からは8年という歳月を経て、当グループホームの存在意義は確立されつつあると考えている。行政や地域の方々、法人内他部署との連携・協力体制はできてきたと考えられる。その中でも夜間想定防災(防火・避難)訓練では、法人内当直者がすぐに応援体制をとれるよう訓練に参加してもらっている。一方、利用者は重度化が進み、車椅子の方が過半数となったり、100歳を迎えられた方もいるなど超高齢化も進んでいる。また、在宅酸素療法を受けている方もいて、医療との連携が必要な方が増えている。そういう状況の中で、入居者の自立支援をどのように構築していくか、日々の生活の質をどのように高めていくかということはスタッフ共通の悩みでもあるが、少しでも満足度の高いサービスができるようチームで取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3972000222-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年2月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域の高台に位置し、同一敷地内にある母体法人の医療機関や他施設等との連携、協力体制を築いている。認知症家族の会やボランティアと交流し、村の敬老会、イベントへ積極的に参加するなど、理念である地域に開かれた事業所を目指して取り組んでいる。また、運営推進会議の地域代表が玄関前に花壇を造ってくれたり、日常的にも買い物や散歩のときに利用者から馴染みの人に声をかけるなど身近な交流が行われている。事業所内では月2回、法人の音楽療法士による音楽療法を楽しみ、居室にテーブルと座布団を置いて家族との団欒の場を設けたり、造花作りや居室に好きな芸能人の写真を貼ったり、ジグソーパズルを作って飾るなど利用者はその人らしい生活を送っている。職員は法人内の研修や外部研修にもよく参加し、日々のケアの実践に活かしている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:本館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成しており、職員や来訪者の見やすい場所に掲示し、浸透・共有に努めている。できるだけ理念に基づき利用者とは向き合って実践するようにしている。	利用者個々のペースに合わせた接し方を心がけ、人格を尊重しながら自立支援を行い、家族的で地域に開かれた事業所を目指す理念を掲げ、玄関など見やすい場所に掲示し、職員会で理念を実践するための目標を立てて日々のサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内外のイベントなどで地域の人々との交流の機会を作ったり、外出・買い物などで入居者が地域の人々と交流できるよう支援している。地域のボランティア(子どもたちも含む)にも来ていただき交流している。	母体法人が開催するイベントにグループホームコーナーを設けて地域住民との交流の機会にしたり、地区の敬老会への参加や、地域の認知症家族の会との交流、ボランティアの訪問等による交流を行っている。また、知人等から野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に管理者が窓口となり、入居者や待機者家族などに対し、認知症についての理解を深めていただけるように努め、気軽に相談していただいている。また、法人広報誌にも投稿し、ホームの様子を地域の方にも知っていただけるよう情報発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度定期的開催し、意見や助言をいただきサービスに活かすようにしている。地域の行事・活動やボランティアの情報なども得ている。	運営推進会議には利用者代表や家族、地域代表、行政等が参加し、利用者やサービスの状況を報告し、参加者から要望、助言、地域行事の情報等を得て運営に反映している。外部評価等で明らかになった課題についても報告し、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや役場の担当係と電話や面接などで報告・連絡・相談などを随時取り合い、協力し合っている。生活保護の方については福祉保健所担当者や連携をとっている。	事業所の空室状況、入居決定等の運営状況について担当課に報告や相談を行っている。生活保護の関連についても福祉保健所担当者に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会などで理解を深め、実践するよう努めている。帰宅願望のある利用者に対しては、一緒に散歩したり外出したり、それぞれに対応している。	人権擁護の学習会を通じて、職員は身体拘束をしないケアを理解し拘束のないケアを実践している。日中は玄関に施錠せず、利用者の外出の習慣や傾向を把握して対応し、地域の協力も得ている。身体拘束の弊害やリスクに関して家族と話し合い、理解を得るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習や検討会を行っている。入居者支援中の声かけなどにも注意をすようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が窓口になり対応している。必要時に応じて、家族に成年後見制度の活用について説明している。日常生活自立支援事業の必要な方には利用していただいていたが、生活保護受給者についてはホームの方で支援していくよう高知県社会福祉協議会より説明があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、十分な時間をとり、家族に説明を行い、理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。利用者からはその都度、家族には面会時に意見・要望を聞くようにしているほか、文書や電話などでも連絡を取り合うようにしている。そのほかに家族交流会や行事などで随時、意見などを聞ける場を設けている。	利用者には日常生活のほか運営推進会議の場でも意見を聞き、家族からは面会時に意見や要望を聞くようにしている。また、年2回の行事に合わせた家族会では家族同士の集まりの場を設けて、意見を出しやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のグループホーム会(職員会)や随時の面接等で職員の意見や提案を聞き、反映させるよう取り組んでいる。代表者は、管理者を通じて職員の意見等が反映できるように努めている。	毎月の職員会や個別の面接で職員の意見や提案を聞いて業務改善につなげたり、休憩時間や仮眠の取り方、備品の購入など意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、法人内各種委員会等を通じて職員の状況把握に努めており、できるだけ負担のないように配慮や改善がされている。昨年度は、法人内に衛生委員会を立ち上げ、就業環境の整備に一層努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修計画を立案、実施し、参加してもらっている。法人外での研修にもできるだけ参加できるように配慮している。研修内容は、グループホーム会等で報告し共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム連絡協議会に加入しており、研修・交流を実施している。安芸市との「介護人づくり塾」のネットワークに参加し、定期的に勉強会や交流ができています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学(お茶の時間参加するなど)の機会を設けたり、訪問等で面接し、本人の思いを受け止め、話しやすい雰囲気を作り、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面接・電話などで、家族の思いや要望などを汲み取り、不安を軽減していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談から申請・利用開始に至るまで、本人や家族の状況を把握し、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター・医療機関等と連絡を取り合い、ニーズや優先順位を考慮した支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意向や能力、体調等を考慮しながら、一緒に作業等を行うようにしている。人生の先輩としているような経験を教えていただき、日々の生活に役立てたり、本人の自信や生きがいにつながっていくよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況を来所時や電話、毎月のお便りや写真などを通じて報告・説明している。本人や家族の意見を尊重し、共に支え安心して生活できるよう取り組み、お互いの架け橋となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアの方や地域の方など、いつでも誰でも気軽に来れるように努めている。面会がある場合は、本人の居室でゆっくり話ができるよう配慮している。買い物や受診、外出などで馴染みの方と会える機会を作っている。入居前からの行きつけの美容院を利用している方もいる。	利用者が行きつけの理美容院を利用したり、馴染みのボランティアに面会してもらっている。また、買い物や受診、外出などを通じて友人、知人と会える機会を作り、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒にテレビを見たり、洗濯物をたたむなど、関わりが持てるよう配慮している。孤立されたり、話にすれ違いが生じた時などは、スタッフが間に入るなどの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気兼ねなく相談・来所してもらえるように伝えている。本人の病院・施設訪問を実施するほか、家族とは、外で会った時などに声をかけたり話を聞いたりすることもあり、関係が切れないよう快く対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の立場に立って考えるように努めており、希望や意向を尊重し、思いを表出できるようにしている。言語での表出のむずかしい方には、行動・表情等の観察を十分にして把握するようにしている。	日々利用者との会話から一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者には、チームで取り組んで検討し、家族からも情報を得ながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジャー・相談員・地域包括支援センターなどから情報を把握している。本人や家族との会話からも情報収集するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送り・記録から情報を集めている。実際のサービスを提供する中で観察や、積極的なコミュニケーションなどで状態把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム独自のアセスメント表を活用しながら、本人・家族・医療機関などの意向・意見をふまえて、スタッフ間で定期的カンファレンスを行っている。法人内のケース検討会でも多くの参考意見をいただいている。	利用者や家族の意向、職員の気づき、関係職種からの意見等を踏まえて職員で定期的カンファレンスを行い、介護計画を作成している。利用者及び家族の要望や状態が変化した時はその都度計画の見直しを行い、家族と話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録やサービスチェック表を活用し、申送りなどで情報共有しながら、実践やアセスメントにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の法人外医療機関への受診など、家族の状況に応じて、連絡を取り合いながら対応している。法人内の音楽療法士による音楽療法も継続して実施し、時には家族にも参加していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや家族の会などの交流や、法人内のデイケア喫茶・みずき祭への参加などを楽しんでいただいている。地域包括支援センターや民生児童委員の方の協力もいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診の際は家族に声をかけ、家族が付き添えない場合は代わって支援を行い、情報提供、インフォームドコンセントを実施している。薬局とも常時連携をとっている。	今までのかかりつけ医や、利用者及び家族の希望する医療機関での受診を支援している。ほとんどの利用者が法人の医療機関をかかりつけ医にしている。受診は家族が付き添えない時は職員が対応し、受診結果は家族と職員間で報告し合い、受診記録により共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師である管理者や法人内看護職に、日常のケアでの状態を随時情報提供し、相談、支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の病院とは日常的に情報交換を行っている。入退院時には、法人内外を問わず、連絡を緊密に取り合っており支援出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化の指針について説明し、同意を得ている。入院や状況悪化などに応じ、本人や家族、医療機関との話し合いを行っている。	入居時に、重度化した場合の対応指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、利用者、家族の意向を尊重し家族、医師と話し合いを重ねながら、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。事業所での看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加したり、看護師に確認したりしているほか、法人内の連携体制ができているが、実践力としてはまだまだ不安はある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二度、防災(防火・避難)訓練を行い、うち1回は夜間想定で法人内当直職員訓練も実施している。地震時対応マニュアルはできているが、遠距離通勤職員が多く、近隣職員には法人の災害看護研修を受けてもらっている。地域の方へは、防災訓練への参加をチラシで呼びかけている。	年2回の防災訓練を消防署立会のもとに実施している。地域住民へは防災訓練への参加をチラシで呼び掛け、地域との連携に努めている。夜間想定避難訓練には、母体法人内の当直者の協力も得ている。非常用食料、備品は備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護指針を掲示し、一人ひとりのプライバシーや尊厳を損なわないよう、また慣れ合いの関係にならないよう、言葉かけや対応に気を付けている。	利用者の尊厳を大切にした「プライバシー保護指針」を提示して意識付けを行い、言葉遣いや対応に注意している。また、他の家族や外来者に対して利用者のプライバシーに関する守秘義務を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを取り、入居者がその人らしく生活できるよう努めている。言語でのコミュニケーションのとれない方は、表情や行動などで、本人の思いを汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴・排泄など、本人の意向を確かめながら、一人ひとりのペースを大切にできるよう努めている。介護度の高い方が多く、希望に沿えていない懸念もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やアクセサリーをつけたり、おしゃれを楽しんでおられる方もいる。髪の毛や身だしなみに気をつけた言葉かけ・介助をしている。美容師さんの来所も継続している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下準備や後片付けなどしてもらっている。朝食時は、パン食を楽しみにされている方も多く、週3回パン食を取り入れている。おやつや水分摂取などは希望を聞いて提供している。	利用者の嗜好と栄養バランスに配慮して食事を提供し、利用者は食材の買い物に同行したり、下ごしらえや食器洗い等出来ることを職員と一緒にやっている。職員は利用者と会話をしながら楽しい雰囲気を作り、同じメニューで一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夕食は栄養士立案のメニューを提供してバランスを考慮している。摂取の困難な方には栄養補助食を提供することもある。水分量など看護師の助言を得ながら利用者の状態に合った量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・誘導をしている。利用者の状態に応じて、口腔ケア用品(ハミングッドなど)を使用している。外出困難な方には、協力歯科医院による訪問歯科診療も依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録により把握し、個々の状態に合った誘導や排泄介助方法、紙パンツ・パッドの選択等について話し合いながら支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々の身体状況に合った誘導、排泄介助を行い、布パンツ、リハビリパンツ、パッドなど利用者に適した用品を利用者と共に選択しながら自立支援を行っている。リハビリパンツから布パンツに改善した例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量をチェックしたり、果物・乳製品を多く取り入れたりするなど、個別に便秘予防をしている。散歩・体操をしたり、屋内を歩いてもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自立している方は、本人の希望時に入浴してもらっているが、介助が必要な方は、曜日・時間帯を話し合いで決めて入浴してもらっている。	利用者の希望する時間に入浴しているが、利用者の介助を要する状態に合わせて、利用者の意向を聞きながら時間調整を行い入浴を楽しめるよう配慮している。入浴を拒む利用者には馴染みの職員が声をかけ、チームプレーで入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状態に応じ、居室にて休息をとるなどしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前・食後の服薬介助は、抜かすことなくチェックしている。薬は記録の中にお薬カードを入れており、分かりやすくしている。薬の変更や注意すべき副作用などのある場合は、送りなどで注意を促している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	見たいテレビや見たいDVDを借りてきて見ってもらったり、レクリエーションや作業などでスキップやコミュニケーションを多くとるよう心掛けている。介助量が増えており、できていない日もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候のよい日など法人敷地内の散歩に行ったりしている。家族との外出は支援できている。法人内リフト車を利用し、季節に応じて外出レクリエーションを行っている。本年度は村内の敬老会で、100歳の大表彰を受けた方もいる。	日常的には散歩や買い物、ドライブ等に出かけるほか、地域のイベントに参加したり、花見やみかん狩りなどの外出レクリエーションを行っている。歩行困難な利用者は車椅子で参加している。	介護度が重度になった利用者の外出や外気に触れる機会について検討し、家族やボランティアの協力も得ながら計画を立てることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫に預かり、小銭は本人で持たれている方もいる。デイケア喫茶やお祭りなどでお金を使う機会を作っている。欲しいものがあれば、職員が代わりに買うなどの支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙やはがきが届けば、本人に渡したり、一緒に読んだりしている。年末には年賀状を書いて家族に出していただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節の飾りをしたり、ぬり絵や行事などの写真を貼っている。花を飾ったり、花壇に花を植えるなどしている。共用玄関は特に、極力清潔を保つよう努めている。	玄関には季節に応じた飾り物をし、壁には利用者のぬり絵や似顔絵、行事の写真等を飾り親しみを持てるようにしている。居間にはテレビとソファを配置してくつろぎの場を提供し、食堂には季節の花を飾って季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の自己決定により、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたりすることができている。リビングルームや食事テーブルなど、お気に入りの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、なるべく馴染みのものを持ってきていただくよう助言している。ベッド、タンス、家族との写真、寝具、衣類など本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室には利用者それぞれのベッドと好みの寝具を持ち込み、馴染みの筆筒、テレビ、家族の写真、テーブルや座布団、ジグソーパズル、花など利用者の思いどおりに配置して、居心地の良い居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、できないことを把握し、できることはなるべく自分でやってもらうよう支援している。トイレなどわかりやすく表示するようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:新館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成しており、職員や来訪者の見やすい場所に掲示し、浸透・共有に努めている。できるだけ理念に基づき利用者と向き合って実践するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内外のイベントなどで地域の人々との交流の機会を作ったり、外出・買い物などで入居者が地域の人々と交流できるよう支援している。地域のボランティア(子どもたちも含む)にも来ていただき交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に管理者が窓口となり、入居者や待機者家族などに対し、認知症についての理解を深めていただけるように努め、気軽に相談していただいている。また、法人広報誌にも投稿し、ホームの様子を地域の方にも知っていただけるよう情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度定期的開催し、意見や助言をいただきサービスに活かすようにしている。地域の行事・活動やボランティアの情報なども得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや役場の担当係と電話や面接などで報告・連絡・相談などを随時取り合い、協力し合っている。生活保護の方については福祉保健所担当者と連携をとっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会などで理解を深め、実践するよう努めている。帰宅願望のある利用者に対しては、一緒に散歩したり外出したり、それそれぞれに対応している。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し伝達講習や検討会を行っている。入居者支援中の声掛けなどにも注意をすようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>主に管理者が窓口になり対応している。必要時に応じて、家族に成年後見制度の活用について説明している。日常生活自立支援事業の必要な方には利用していただいていたが、生活保護受給者についてはホームの方で支援していくよう高知県社会福祉協議会より説明があった。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に、十分な時間をとり、家族に説明を行い、理解・納得が得られるようにしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にご意見箱を設置している。利用者からはその都度、家族には面会時に意見・要望を聞くようにしているほか、文書や電話などでも連絡を取り合うようにしている。そのほかに家族交流会や行事などで随時、意見などを聞ける場を設けている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、毎月のグループホーム会(職員会)や随時の面接等で職員の意見や提案を聞き、反映させるよう取り組んでいる。代表者は、管理者を通じて職員の意見等が反映できるよう努めている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、法人内各種委員会等を通じて職員の状況把握に努めており、できるだけ負担のないように配慮や改善がされている。昨年度は、法人内に衛生委員会を立ち上げ、就業環境の整備に一層努力している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で研修計画を立案、実施し、参加してもらっている。法人外での研修にもできるだけ参加できるように配慮している。研修内容は、グループホーム会等で報告し共有化を図っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>宅老所・グループホーム連絡協議会に加入しており、研修・交流を実施している。安芸市との「介護人づくり塾」のネットワークに参加し、定期的に勉強会や交流ができています。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に見学(お茶の時間参加するなど)の機会を設けたり、訪問等で面接し、本人の思いを受け止め、話しやすい雰囲気を作り、安心していただけけるように努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の見学や面接・電話などで、家族の思いや要望などを汲み取り、不安を軽減していただけるよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談から申請・利用開始に至るまで、本人や家族の状況を把握し、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター・医療機関等と連絡を取り合い、ニーズや優先順位を考慮した支援をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者の意向や能力、体調等を考慮しながら、一緒に作業等を行うようにしている。本人の自信や生きがいにつながっていくよう心がけているが、無理強いはいしないなどの配慮をしている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の状況を来所時や電話、毎月のお便りや写真などを通じて報告・説明している。本人や家族の意見を尊重し、共に支え安心して生活できるよう取り組み、お互いの架け橋となるよう努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ボランティアの方や地域の方など、いつでも誰でも気軽に来れるような環境作りに努めている。スーパーでの買い物や受診、家族との外出などで馴染みの方と会える機会を作っている。入居前からの行きつけの理容院を利用している方もいる。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ホールで一緒にテレビを見たり、洗濯物をたたみながら会話したり、時には助け合ったりと関係性が築けて支援できている。個々の状態をみて、食事やホールの席を関係性が築けやすいように配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も気兼ねなく相談・来所してもらえるように伝えている。本人の病院・施設訪問を実施するほか、家族とは、外で会った時などに声をかけたり話を聞いたりすることもあり、関係が切れないよう快く対応している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の立場に立って考えるように努めており、希望や意向を尊重し、思いを表出できるようにしている。言語での表出のむずかしい方には、行動・表情等の観察を十分にして把握するようにしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアマネジャー・相談員・地域包括支援センターなどから情報を把握している。本人や家族との会話からも情報収集するよう努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>申込み・記録から情報を集めている。実際のサービス提供中での観察や、積極的なコミュニケーションなどで状態把握にも努めている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ホーム独自のアセスメント表を活用しながら、本人・家族・医療機関などの意向・意見をふまえて、スタッフ間で定期的にカンファレンスを行っている。法人内のケース検討会でも多くの参考意見をいただいている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の経過記録やサービスチェック表を活用し、申込みなどで情報共有しながら、実践やアセスメントにつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の法人外医療機関への受診など、家族の状況に応じて、連絡を取り合いながら対応している。法人内の音楽療法士による音楽療法も継続して実施し、時には家族にも参加していただいている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアや家族の会などとの交流や、法人内のデイケア喫茶・みずき祭への参加などを楽しんでいただいている。地域包括支援センターや民生児童委員の方の協力もいただいている。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>受診の際は家族に声をかけ、家族が付き添えない場合は代わって支援を行い、情報提供、インフォームドコンセントを実施している。薬局とも常時連携をとっている。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師である管理者や法人内看護職に、日常のケアでの状態を随時情報提供し、相談、支援してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>法人の病院とは日常的に情報交換を行っている。入退院時には、法人内外を問わず、連絡を緊密に取り合っており支援出来ている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、重度化の指針について説明し、同意を得ている。入院や状況悪化などに応じ、本人や家族、医療機関との話し合いを行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修に参加したり、看護師に確認したりしているほか、法人内の連携体制ができているが、実践力としてはまだまだ不安はある。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二度、防災(防火・避難)訓練を行い、うち1回は夜間想定で法人内当直職員訓練も実施している。地震時対応マニュアルはできているが、遠距離通勤職員が多く、近隣職員には法人の災害看護研修を受けてもらっている。地域への方へは、防災訓練への参加をチラシで呼びかけている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護指針を掲示し、一人ひとりのプライバシーや尊厳を損なわないよう、言葉かけや対応に気を付けている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを取り、入居者がその人らしく生活できるよう努めている。言語でのコミュニケーションのとれない方は、表情や行動などで、本人の思いを汲み取るよう努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事や入浴・排泄など、本人の意向を確かめながら、一人ひとりのペースを大切にできるよう努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>以前に興味のあったおしゃれ(化粧)など、声かけにて行ってもらっている。身だしなみに気をつけている。美容師さんの来所も継続している。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>簡単な下準備や後片付けなどしてもらっている。朝食時は、パン食を楽しみにされている方も多く、週3回パン食を取り入れている。おやつや水分摂取などは希望を聞いて提供している。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>昼・夕食は栄養士立案のメニューを提供してバランスを考慮している。摂取の困難な方には栄養補助食を提供することもある。水分量など看護師の助言を得ながら利用者の状態に合った量を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、声かけ・誘導をしている。利用者の状態に応じて、口腔ケア用品(ハミングッドなど)を使用している。外出困難な方には、協力歯科医院による訪問歯科診療も依頼している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを記録により把握し、個々の状態に合った自立支援を行っている。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分量をチェックしたり、果物・乳製品を多く取り入れたりするなど、個別に便秘予防している。散歩・体操をしたり、屋内を歩いてもらったりしている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>自立している方は、本人の希望時に入浴してもらっているが、介助が必要な方は、曜日・時間帯を話し合いで決めて入浴してもらっている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>1人ひとりの状態に応じ、居室にて休息をとるなどしてもらっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>食前・食後の服薬介助は、抜かすことなくチェックしている。薬は記録の中にお薬カードを入れており、分かりやすくしている。薬の変更や注意すべき副作用などのある場合は、申送りなどで注意を促している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>見たいテレビや見たいDVDを借りてきて見ってもらったり、レクリエーションや作業などでスキップやコミュニケーションを多くとるよう心掛けている。介助量が増えており、できていない日もある。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候のよい日など法人敷地内の散歩に行ったりしている。家族との外出は支援できている。法人内リフト車を利用し、季節に応じて外出レクリエーションを行っている。本年度は村内の敬老会で、100歳の大表彰を受けた方もいる。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金は金庫に預かり、小銭は本人で持たれている方もいる。デイケア喫茶やお祭りなどでお金を使う機会を作っている。欲しいものがあれば、職員が代わりに買うなどの支援もしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族から手紙やはがきが届けば、本人に渡ししたり、一緒に読んだりしている。年末には年賀状を書いて家族に出していただいた。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁に季節の飾りをしたり、ぬり絵や行事などの写真を貼っている。花を飾ったり、花壇に花を植えるなどしている。共用玄関は特に、極力清潔を保つよう努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の自己決定により、居室で過ごされたり、ホールで過ごされたりすることができている。リビングルームや食事テーブルなどお気に入りの場所で過ごせるよう配慮している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際には、なるべく馴染みのものを持ってきていただくよう助言している。ベッド、タンス、家族との写真、寝具、衣類など本人が居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できること、できないことを把握し、できることはなるべく自分でやらせようよう支援している。トイレなどわかりやすく表示するようにしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				